



居場所を失った人への 緊急活動応援成

赤い羽根 ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援キャンペーン

<居場所を失った人への緊急活動応援成 第9回>
(2024.4.1 ~ 2025.3.31)

助成で行った活動の概要

【目的】

物価高騰が止まらない現在、ひとり親家庭・生活困窮家庭の『金銭』や『食』に対する不安、また先の見えない精神的な不安に寄り添い、「食べる」「学ぶ」「暮らす」という、人が生きるうえで大切な3つの柱を支えることで生まれる『安心感』を提供すること

①食料支援「てとて」：フードバンク活動を活用した食料・日用品配布及び配送

- 月1回実施・約190家庭(内 配送57家庭)
延べ2,241家庭(内 配送608家庭)
- 食料が必要な生徒のために、岡山県内の高校2校に配達 (対象)
「てとて」登録のひとり親家庭・生活困窮家庭、生徒・延べ20人



食料支援

②学習支援「みらい」：

- タブレットを貸与し、オンライン学習を実施：随時
- 進学に必要な奨学金等の相談支援 (対象) 「てとて」登録の小学1年から高校3生の子ども：約14家庭

③相談支援： 1. 貧困の背景には様々な困難があり、それぞれの不安、悩み、困りごと等に寄り添い、必要に応じて専門機関等とケース検討会議を開催する等、真の解決をめざす。 (対象)「てとて」登録者

相談件数：延べ 約2,383件

④体験活動の提供及び居場所づくり

- 舞台芸術鑑賞活動への参加：年4回 延べ50人
- 科学であそぼうへの参加：年1回
- ボランティア活動への参加：「食料支援」「科学であそぼう」「児童館まつり」

：年14回 延べ240人 (対象) 岡山県内のひとり親家庭等の親子・「てとて」登録の親子
活動日数：365日 食料・日用品支援件数

：実数 200家庭・延べ 700人 フードバンク活動：食料・日用品寄付：
個人：約240名・企業約180件・
総重量：約37T

活動の成果

◎食べる：食料支援「てとて」

- フードバンクにより集まった物資を提供することで、家計の助けとなるとともに、精神的な安心感を得られた。
- 学校現場で生徒の貧困やネグレクトが把握された際、教職員と連携し食料配布を行うことで早期の対応が可能となった。
- 物価高騰の中、食料支援を「入口」とし、信頼関係の構築を経て、孤立した家庭の課題把握と真の解決へつなぐことができた。



食料支援のボランティア

◎学ぶ：オンライン学習支援「みらい」

- 塾に通えない子どもたちに学習できる環境を提供し学習力をアップさせることができた。

- ・志望校に合格したことは最大の成果である。
- ・家庭の経済状況を把握しタブレットと Wi-Fi 機器を貸与することで、いつでも学べる環境を提供できた。
- ・不登校や発達障がいを抱える子どもにとって、非対面・個別化した学びが可能となった。
- ・オンライン学習はもちろん学習塾講師による LINE での質問対応など柔軟で手厚い支援体制を実現した。
- ・進学への不安を持つ家庭に対し、外部奨学金等の情報を迅速に提供し、進路の選択肢を広げることができた。



オンライン学習

◎体験活動の提供及び居場所づくり

- ・社会性、自己肯定感を高め、豊かな人間性を養う機会となった。
- ・コロナ禍以降失われた体験機会を提供し、子どもの発達・成長を支える機会を提供することができた。
- ・食料支援を支えるボランティアへの参加を体験してもらうことで社会性や自己肯定感を育む機会を提供することができた。

◎相談支援

- ・他者の生き方を尊重し、悩みや困りごとを寄り添って聴くことで、「自分ひとりじゃない」と安心してもらうことができた。
- ・信頼できる関係性を構築し、生活困窮や精神的負担、障がい、不登校、DV、住宅問題等の複合課題を把握し、専門機関と連携、課題の本質に寄り添いながら解決に導く支援を行うことができた。

課題と今後の取組み

- ① 経済的困窮の背景には、金銭的な問題だけでなく、虐待、DV被害、多重債務、知的・発達障がい、精神疾患、愛着障がい等が複雑に絡み合っており、単独では解決の糸口が見えにくい状況がある。
- ② 食料等の提供にとどまらず、生活上のあらゆる困りごとを受け止める相談体制の整備が不十分である。
- ③ 子どもたちが安心して学び、体験できる環境や機会が地域に不足している。
- ④ 行政や公的制度につながるまでの「中継ぎ」の役割を果たす団体が限られており、早期介入や支援の継続が困難である。これらの課題を踏まえ、当法人が行っている多様な事業を組み合わせ対象家庭に必要とされるサポートが提供できる寄り添い型の支援体制を強化し、行政や専門機関等との連携を柔軟に行う仕組みづくりを構築する。こうした複合的な支援を通じて、地域に根ざした「まるごと支える体制」を構築し、誰ひとり取り残さない地域社会の実現をめざす。

寄附をいただいた方へのメッセージ

この度は、皆さまのご寄付により必要な事業を行うことができました。心より感謝申し上げます。 2016年より実施しております、ひとり親・生活困窮家庭のための「いのちまるごとプロジェクト」事業は、物価高騰が止まらない今、必要としている人が増加しているのが現状です。 フードバンク活動を基盤とした食料支援「てとて」は、岡山県内の行政機関やスクールソーシャルワーカー (SSW) のご紹介を受けながら、ますます支援の先が広がっております。食料や日用品をお渡しする際には、「一人じゃないよ。応援していますよ」というメッセージを添え、受け取った方々との信頼関係を築くことを心がけています。このような関係性を通じ、貧困という問題の背景に潜む真の課題の解決を目指しております。 また、教育の機会の格差が貧困の連鎖を引き起こす要因とも言われており、やりたい勉強ができる環境を提供することも私たちの重要な使命です。 こうした活動を通じて、未来を担う子どもたちが、生まれ育った環境に左右されることなく希望ある未来をつかむために、行政や企業、地域の方々と連携しながら貧困問題の解決をめざしていきたいと心より願っております。 今後とも、共感の輪を広げ、より多くの方々を支えられるよう努めてまいりますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。